

公立大学法人三重県立看護大学  
令和5年度業務実績に関する評価結果  
(案)

令和6年8月  
三重県公立大学法人評価委員会

### Ⅲ 大学運営に係る環境整備に関する項目

#### (1) 評価結果

A (平均点 2.0)	評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
	項目数	0	8	0	0	8

#### (2) 実施状況

##### ① 特筆すべき取組

###### <41101 学生の生活支援>

新型コロナウイルス感染症による制限が解除され、学生の行動範囲が急激に拡大した際に健康管理者が不在であったが、教職員一丸となって大学生生活全般についての支援が詳細に行われており、生活支援が充実していると評価できる。

学生の声（意見箱）とその対応については意見箱以外にも気軽に投書ができるようにQRコードを活用したり、Web投稿も導入し、寄せられた意見は学内ホームページや学内に掲示して周知するなど、見える形で公表するような方法が考えられ、実践されている。

さらに学生、教職員、地域住民が一体となる夢緑祭の久々の開催、ボランティア活動の拡大など、学生の大学生生活の支援を丁寧に行っていることは評価できる。夢緑祭等はコロナ世代の学生にとっては貴重な機会であり、今後も継続的に支援していただきたい。

多くの学生が地域に出てボランティア活動をすることによって地域の人と接し、地域の新たな課題を発見する活動が増えることを期待したい。経済的に困窮している学生へのサポートも今後続けていただきたい。

###### <41102 教職員の健康管理>

教職員の健康管理に関して多方面から原因究明をしようとする試みがされていることは理解できる。一方で、令和5年度教員満足度アンケートの満足度点数自体が低く、且つ、前年度から低下している。その主たる原因が「研究環境」であり、研究環境の改善が重要な課題である。また、「ハラスメントを許さない認識の浸透」についても満足度が低下していることから、法人内での研修などを通して、ハラスメントに対する認識の向上が必要であると考えられる。職員満足度は、前年と大きな差はなかったが、教員満足度よりも低い水準である。

いくつかの対策が実施されているものの、職場環境が改善されたとは言い難い状況である。

自主的に満足度の数値目標を設定のうえ、抜本的な対策を検討・実施すべき課題であり、原因の更なる調査が必要と考える。

特にハラスメントに関する項目は人材確保の観点からも重要であり、重点的に取り組む必要がある。

教職員の健康は大学づくりを進めるうえでの根幹であることから今後さらに重視して取り組んでいただき、必要に応じて健康管理体制を見直すなど、

職場環境のさらなる改善を望む。

#### <42101 教育環境・IT環境の整備>

中長期的計画に基づいて施設・設備・備品等の整備・改修の充実を着実にやっているが、大学の教育環境・IT環境の整備は学生、教職員にとって教育研究活動を促進するための極めて重要な条件整備となる。

したがって、IT環境・関連については教育、研究、経営に支障をきたさないよう、学内全体のIT環境を十分に把握し、加速度的に変化するIT環境を見通して積極的投資の考えのもと、計画的に取り組み、実践していただきたい。また、セキュリティーにも十分配慮していただきたい。

#### <42102 図書館運営の充実>

図書館利用者の利便性向上のため、電子化にて図書館利用サービスを提供したことは評価できる。在学中から図書館の意義、重要性を体験しておくためには図書館の充実が重要であり、図書館の**利用**訪問頻度の向上に努めていただきたい。

意識して図書館業務委託者とともに使いやすい図書館を目指しているが、課題を出す教員の意見も十分に反映してなじみやすく、使用しやすい図書館になるよう、スピード感をもって進めていただきたい。

貴学は特色ある図書館づくりを目指しており、附属看護博物館は注目に値する。今後この博物館が三重県立看護大学ならではの博物館として充実することを期待する。まだ博物館としてのインパクトがないように考えられるため、さらに県内外の看護関係者のみならず、これから看護師を目指す方々にとって興味関心の持てる博物館となるよう積極的に広報し、アピールすることが重要と考える。

#### <42103 環境等への配慮>

光熱費高騰の折、環境に配慮しながら省エネを進める努力がみられる。日々の細かな一つ一つの行動であるが、かなり習慣化していると考えられる。引き続き日々の生活の中での環境への配慮を期待したい。

バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮をした施設へと計画的に進めていることは評価できる。

一般的な啓発活動に留めず、学生の看護教育の中に環境問題やSDGs問題を取り入れる教育があればいいのではないかと考える。SDGsの啓発を積極的にお願いしたい。

#### <43101 大規模災害時等への対応>

「安否確認システム」の操作訓練を2回実施した点、返信率が高かった点は評価できる。特に、能登半島地震で北陸地方の学生の安否を確認した点は高く評価できる。能登半島地震を契機に、教職員の自動参集条件を見直すなど、適切なPDCAサイクルが確保されているものと評価する。危機管理態勢については、今後も常に見直していくことが重要であると考えられる。

災害発生のたびに、これまでに作成したマニュアルに基づいた行動をとり、

マニュアルや対応の確認ができていたことはより実践的で効果的であった。

#### <43102 危機管理への対応>

危機管理への対応はリスク管理委員会で一括して対応を進めていくというわかりやすい組織にはなっている。

新型コロナウイルス感染症が5類になったとはいえ、コロナ感染者の動向には注意が必要なことから、大学においては引き続きリスク管理委員会を中心にコロナ対策を学生、教職員に徹底いただきたい。

しかし、危機管理の中で、特に情報技術は日進月歩であるため、サイバー攻撃への対応など情報のリスクに関して十分に予測できる内容の対応を考えておく必要がある。サイバー攻撃を受けた場合を想定した訓練の実施など踏み込んだ対策を検討し、ネットワークの安全管理も徹底してほしい。

#### <44101 人権尊重とハラスメント防止>

ハラスメント防止の研修会は学生、教職員など、さらに学年別、役割に分けて詳細に対象者別に必要な内容を実施していることは評価する。一方でせっかく実施しても1年生向けは令和4年度も令和5年度も参加者が少ない。実施方法に関しては前年度の評価をしたうえで有効な方法で行うなどの検討が必要である。

ハラスメント相談件数の増加については、ハラスメントに対する声をあげやすい環境が整備されたとの理由であるが、これまでのハラスメント防止策の実効性が懸念される状況であるため、**現状のハラスメント防止策や体制が適切なものであるか否かについて検討することも必要ではないか**と考える。また、今後重大なハラスメント事案（刑事事件等）がおこった場合においても外部相談窓口と連携し対応するなど、適切にリスク管理を実施いただきたい。

#### ② 遅れている取組

該当なし

#### ③ 前年度に評価委員会から意見、指摘した項目

該当なし

#### ④ 法人による評価と評価委員会の評価が異なる項目

該当なし

#### (3) 評価にあたっての意見、指摘事項等

該当なし